



柏原力UP↑

Vol. 1
H25.12

発行・編集 山口ゆか後援会事務所
<http://yamaguchiyuka.com/>

〒582-0005
柏原市法善寺2丁目3-23
TEL 072-921-7430
FAX 072-926-5077
Email info@yamaguchiyuka.com

市政報告書

柏原市議会議員山口ゆかの活動報告 日頃の活動報告はブログ・Facebookで配信中

ごあいさつ

9月8日に行われました柏原市議会議員選挙において、市民の方々の信託を受け最後の議員として初めての当選をさせていただきました。ご支援いただきました市民の皆さんに厚く御礼申し上げます。

ムダなものはムダ、必要なものは必要、ムダをなくして必要なものに全力を注ぐといった政治をめざします。このまちの産業が、人々が活気つき、人口的にも経済的にも発展していくよう努力してまいります。

大きな声はよく届きますが、小さい声、声なき声を救いあげができるそんな議員をめざします。

一意専心、精進してまいりますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

議会改革！！

会派（新風かしわら）で議員定数削減、議員報酬カットを提案しています。実現に向け、今後なお、訴えてまいります！

初登壇！個人質問

平成25年第4回定例会で個人質問の機会を与えていただき、初めての登壇をいたしました。

議案第62号柏原市青少年教育キャンプ場について質疑を1件、一般質問では0歳児保育について、市立柏原病院の現状と今後について、旧国道170号歩道拡幅工事について、市域におけるWi-Fi（ワイファイ）などのネット環境の整備について、の4件、合わせて5件について質問いたしましたのでここにご報告いたします。

後日、柏原市のWebサイトに会議録と動画がアップされる予定ですので、ぜひご覧ください。

柏原市議会 <http://www.city.kashiwara.osaka.jp/gikai/index.htm>



《議案第62号 柏原市青少年教育キャンプ場条例の廃止について》



キャンプ場を廃止する理由を大きく2つにまとめてみると・・・

- ① 柏原市青少年教育キャンプ場の施設が老朽化し建て替えや改修の費用が市の財政の中で負担となること
- ② 少子化の影響やキャンプ自体の魅力がなく時代に合わないためキャンプ場利用者数が減っていること

以上の2点が柏原市が考える理由です

①に対しては市の財政の現状から考えて理解もでき賛成の立場をとりました。しかし②のような分析、反省、考え方では今後の子どもたちの野外宿泊教育のあり方について不安に思い、次のように個人質問に取り上げ、野外宿泊教育の意義、社会教育のあり方を問いました。

質問 社会教育としての野外宿泊研修（キャンプ）の今後について、また社会教育課の考えるキャンプの意義を問う

答弁 生涯学習部 社会教育課

近隣の施設を利用して従来通り実施の予定。キャンプの意義とは団体活動を通じて協調性や自主性を育むことができる事業である。

要望 柏原市にキャンプ場がなくなるとしてもキャンプの意義に基づき他市の施設を利用して引き続き野外宿泊研修を行っていただきたい。

山口ゆかが考えるキャンプの意義

住み慣れた家をあとにして**親元を離れ**、別の学校の全く知らない子とグループを組んで新しく友達となり、協力し合いご飯を作り自然の中の静まり返った山の中で助け合い励ましあいながら子どもたちは山での一夜を過ごします。**街なかと違い**明りもなく真っ暗です。昼間は暑いのに山の夜は寒い。そういう対応も自分でしなければなりません。朝を迎える、いつもならお母さんがお父さんが朝ごはんの用意をしていてくれますが、どれだけお腹がすいていても**自分たちで作って朝ごはんを用意しないと食べることができません**。食べたあとは鍋や飯ごうを家の人が洗ってくれるのではなく**自分たちできれいに洗わなくてはなりません**。

そういった自然の中での野外宿泊研修を終えて**住み慣れたわが家**に帰った時、「おかえり!お腹すいたやろ」と言っておうちの人がご飯を作ってくれて、あつたかいお風呂を用意してくれて、空調のきいた部屋があり、布団も敷いてくれています。その時に初めて子どもたちは「いつもは気づかなかったけど毎回毎回ご飯を用意してくれて本当にありがとうございます。お風呂やクーラーってすごくいいな、日本に生まれてよかったな」と親や家族への感謝、モノへの感謝の心が育まれ、家のありがたさを、自分たちが守られていていることを知ることができます。

ここまでが社会教育における野外宿泊研修の意義だと私は考えます。家庭の中や学校やほかの野外活動で得られるものではなく**キャンプが一番**です。

山口ゆかが主張すること

親への感謝、モノへの感謝、生きていることへの感謝を学べるのが野外宿泊研修でありキャンプの意義と考える。この意義を大事に考え、毎年子どもたちにキャンプを通じて社会教育をされている団体や個人の方々が現に今年度も利用されてきた。次年度から子ども会などの団体が子どもたちの野外教育のため、キャンプをしようとした時、社会教育課へ行けば、近隣施設の情報が一覧にまとまっていて細かいことまで相談できる窓口サービスや、今回廃止となったキャンプ場の備品の中で使えるもの（ダッヂオーブンや寝袋など）を無償でレンタルして、利用者の負担を軽減するなどの貸出しサービス等を整えていくことなど、**イベント企画**といったソフト面より、こういったハード面を支援していくことが行政のあり方ではないかと考える。

柏原市においても子どもの数が減ってきているのは事実であるが、キャンプ場の利用者数が減ってきているのは少子化の問題だけではなく、子どもたちを支える大人たちの力も減ってきているのではないか。

学校の休みに合わせてキャンプに連れて行くとなると土日となるが、平日働いている大人たちには大きな負担になる。**子どもだけに目を向けるのではなく、お世話をする側の大人も柏原市が支えていくことが大事**だと私は考える。

行政側は今までのキャンプ教育に変わりうる新しい何かを提案していくとしているが、それは家庭キャンプや学校で行われるキャンプと同じものである。家庭教育でも学校教育でもない、社会教育とは何なのかを見つめなおし、**真の社会教育キャンプをめざすべきだと主張する**。

質問 0歳児保育の待機児童ゼロの取組について
公立と民間保育所の保育内容、保育需要の現状について

答弁 健康福祉部 こども課

0歳児の保育については民間保育所6ヶ所に委託しており年度当初は待機児童無ではあるが、**年度途中で入所希望に添えない**現状がある。理由としては、保育士の確保が厳しいとのこと。
公立・民間とも認可保育所として定められた基準に遵守しており質の高い保育を提供できるよう努めている。
保育需要は乳児期の**低年齢児から増加**しており、公立より民間の入所希望が多くなっている。今後もさらに増加していくと推察されるので慎重に検討していく。

要望 低年齢児の保育需要が増加しているにもかかわらず、**公立保育所**ではそのための施設改修が必要である場合、民間保育所のように**国・府の補助を財源とできず**、市の単独財源で行わなければならない。**民間であれば補助があり**力を注ぎやすい。働くお母さんを支えていくためにも、そして**働く女性を支援**していくことで市が発展するためにも、公立保育所2ヶ所程度を**民営化**して保育ニーズに対応し、もっと前向きに子育て環境の充実を要望する。

質問 旧170号歩道拡幅工事の進捗状況について

答弁 都市整備部 道路水路整備課

堅下小学校交差点から平野交差点までの工事が平成25年度中には完成する予定で、その後引き続き車道の舗装整備を行い、平成26年度早期に工事が完了し、全線供用開始する予定。

要望 道路整備がされ、通行車両にとってはスムーズに通行しやすくなり、**スピード**を出しやすい状況となるのはと**危惧**する。恩智川多目的遊水地事業等、府の関連工事も進行中であるので**大型工事車両**及び工事関係外車両についても住民の方々（特に通学児童や高齢の方）へ**安心と安全**の確保に努めていただくよう引き続きの注意喚起をお願いする。

市政報告会

まだ3ヶ月ほどの議員生活ですが、第3回第4回定例会、決算特別委員会がありました。3ヶ月間の議員活動を報告させていただきますので、お忙しいとは存じますが是非足をお運びくださいますようお願い申し上げます。

- ① 1月25日（土）19時30分より 法二会館にて
- ② 1月26日（日）18時より アゼリア中会議室にて
- ③ 2月2日（日）18時30分より 東町老人会館（国分本町4）（予定）

※予定が変更する場合もございます。
ご不明な点がございましたら連絡先までご連絡くださいます
ようお願いいたします。
連絡先 072-921-7430

質問 市立柏原病院の経営状況及び今後の見通し、具体的な改善策の進捗状況について

答弁 病院事業事務局

長期入院患者の一定の受け入れ体制や平成26年1月より救急開始、新たに標榜し内科の特化を図ったりと目標達成に向け取り組んでいる。
一方、本年10月までの医業収益も向上しているが新改革プランの目標額には及んでいない状況。
今後の目標としては、大阪府がん拠点病院の指定をめざしプロジェクトチームを編成し準備を進めている。経営面では目標額達成に向け引き続き努力していく。

答弁 市長

市としても一丸となり努力している。撤退するにも多額の費用が発生する。ただ、このままではいけないと認識をしている。然るべき時期がきたら判断しないといけないと考えている。

要望 医師はじめ職員の方々の**努力が伝わる**一方、医業収益の目標額の達成は難しく、**大幅な改善策**が講じられなければ累積欠損金が減少せず、市が進めていこうとしている子育て支援や教育への事業への予算確保ができないのではないか。引き続き改善に向けご尽力いただきたい。

質問 市域におけるWi-Fi（ワイファイ）などのネット環境ITインフラ整備について

答弁 政策推進部 企画調整課

Wi-Fiは観光客に対する利便性の向上、情報発信力の強化、災害時の重要なツールとして注目されており国においてもまちづくり事業として推進されている。

柏原市でも情報発信手段としてフェイスブックなどのソーシャルネットワーキングサービス（SNS）の活用をスタートしている。段階を経てネット環境のさらなる充実に取り組んでいきたいと考える。

要望 5年10年でITの世界は様変わりする。**先を見据え** ITインフラ整備に力をいれてはどうか。**2020年東京オリンピック**開催に際し、関西に流れてくると見込まれる**観光客**が柏原市を訪れるようなまちづくりや、また**災害時の連絡**ツールのひとつとするべきでは。

ソフトやアプリといったものよりも、行政が重点をおくべきはハード。市民サービス、災害時対策、まちおこし、これら柏原市のためのネット環境、特に**ソフト面ではなくハード面**、つまり**ITインフラの整備の充実**に前向きに取組んでいただくよう強く要望する。

